
平成21年1月期
決算参考資料

平成21年3月4日

(株)サガミチェーン

東証・名証1部上場 コード:9900

設立:1970年3月 資本金:63億300万円

株式会社サガミチェーン

目次

1. 連結対象企業の事業内容	—————	P2
2. 平成21年1月期業績の概況	—————	P2
3. 財政・キャッシュフローの概況	—————	P3
4. 店舗展開の状況	—————	P3
5. 平成21年1月期業績の背景	—————	P4
6. 平成22年1月期の業績予想	—————	P5
7. 追補	—————	P5

1. 連結対象企業の事業内容

○連結子会社の対象範囲は連結子会社4社となっております。

[連結子会社]

名称	住所	資本金又は 出資金（千円）	事業の内容	議決権の所有 割合（％）
株式会社ディー・ディー・ エー	名古屋市守山区	200,000	飲食店の経営 FC店店舗への材料 提供及び経営指導	100.0
株式会社サガミサービス	名古屋市守山区	10,000	損害保険及び生命 保険の代理業務	100.0
株式会社エー・エス・サガ ミ	名古屋市守山区	70,000	飲食店の経営	71.4
上海盛賀美餐飲有限公司	中国上海市	260,000	飲食店の経営	93.4 (16.4)

※議決権所有割合の（ ）書きは間接所有部分で内書であります。

2. 平成21年1月期業績の概況

○連結ベースの経営成績

○単独ベースの経営成績

単位 (百万円/円)	平成20年 1月期	平成21年 1月期	前年比 (%)	単位 (百万円/円)	平成20年 1月期	平成21年 1月期	前年比 (%)
売上高	26,460	25,582	△3.3	売上高	23,701	22,821	△3.7
営業利益	396	267	△32.5	営業利益	282	164	△41.7
経常利益	469	227	△51.4	経常利益	331	210	△36.5
当期純利益	△157	△549	—	当期純利益	△155	△501	—
一株あたり 当期純利益	△6.45	△22.54	—	一株あたり 当期純利益	△6.38	△20.56	—

○配当について

当期末配当につきましては見送る事といたしました。

○株主優遇策について

平成21年1月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当（通期換算 3万円）の株主優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

○連結財政状態

単位 (百万円/%/円)	平成20年 1月期	平成21年 1月期
総資産	20,799	19,800
純資産	15,072	14,274
自己資本比率	72.4	72.0
一株あたり純資産	616.92	584.56

○連結キャッシュフローの状況

単位 (百万円)	平成20年 1月期	平成21年 1月期
営業活動によるキャッシュフロー	974	246
投資活動によるキャッシュフロー	△1,028	△593
財務活動によるキャッシュフロー	△469	99
現金及び現金同等物 期末残高	4,058	3,773

○設備投資について

連結設備投資は 7億09百万円 (H20.1実績 8億12百万円) となりました。

○減価償却費について

減価償却費は 5億99百万円 (H20.1実績 5億67百万円) となりました。

4. 店舗展開の状況

	平成20年1月期	平成21年1月期			平成22年1月期 計画		
	店舗数	出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
サガミ	172	1	5	168	—	7	161
どんどん庵	85	2	5	82	4	—	86
じゅうはち家	2	—	2	—	—	—	—
あいそ家	4	1	1	4	3	—	7
さがみ庭	3	—	1	2	—	—	2
あんかけスパDONDONあん	4	—	1	3	—	—	3
上海盛賀美	4	1	1	4	2	—	6
その他	1	2	—	3	—	—	3
合計	275	7	16	266	9	7	268

○平成21年1月期の店舗展開の状況について

業態変更等のリモデルを含む新規出店は「サガミ 1店」「どんどん庵 2店」「あいそ家 1店」「上海盛賀美 1店」「その他業態 2店」の合計 7店 (うち純新店数 5店) となりました。一方、閉店につきましては「サガミ 5店」「どんどん庵 5店」「じゅうはち家 2店」「その他業態 4店」の合計 16店 (うち純閉店数 14店) となりました。これにより期末の店舗数は 266店となりました。

○平成22年1月期の店舗展開の計画について

業態変更等のリモデルを含む新規出店は「どんどん庵 4店」「あいそ家 3店」「上海盛賀美 2店」の合計 9店 (うち純新店数 6店) を計画しております。一方、閉店につきましては「サガミ 7店」 (うち純閉店数 4店) を計画しております。これにより平成22年1月期末の店舗数は 268店を計画しております。

なお、新規出店等に係る設備投資につきましては、4億17百万円を計画しております。

5. 平成21年1月期業績の背景

- (1) 平成21年1月期の業績につきましては、三期ぶりの減収・減益となりました。売上高は三期ぶりの減収。営業利益、経常利益、当期純利益につきましては二期連続の減益となりました。なお、当期純損失の計上も二期連続であります。
- (2) 当社を取り巻く環境は、2月の寒波や食品事故に加え、5月には原油価格や原材料価格の高騰等により個人消費は低迷。また、下期には米国で端を発した金融不安が予想を超えた速さ・規模で拡大。雇用不安等も相まって、世界同時不況の様相を呈しております。このように、平成20年度を取り巻く環境は、年初には想像しえないほど激動の一年となりました。
- (3) 主力業態「サガミ」におきましては、第一四半期の既存店売上高が前年同期比 0.5%増と堅調に推移しておりましたが、第二四半期は4.0%減と状況が一変。下期も既存店売上高に改善の兆しは見られず、第三四半期は 3.9%減、第四四半期は 4.7%減となりました。
これにより、サガミの通期既存店売上高前年比は平成20年8月発表の修正予想（以下 修正予想）を 0.6%ポイント下回る、3.1%減となりました。また、子会社ディー・ディー・エーが展開するセルフサービス方式「どんどん庵」におきましても 2.2%減となりました。
- (4) 通期の売上高は既存店が修正予想の前提条件を下回ったことにより、修正予想に対し 2億47百万円減収の 255億82百万円となりました。
また、前年同期比では 8億77百万円の減収であります。
- (5) 売上原価率は 29.8%と修正予想に対し概ね計画通りとなり、前年同期比では 0.3%ポイント低下しております。これは騰勢を強めていた原材料価格が下期には落ち着き、仕入価格が安定したためであります。
- (6) 販管費におきましては、第二四半期以降の環境変化に対応すべく、配送形態の見直しや中途採用の抑制等の経費削減計画を策定。修正予想において前年同期比較 2億78百万円の経費削減効果を見込んでおりました。これに対し、実績は前年同期比 4億01百万円減額の 177億03百万円となりました。
- (7) 経費削減計画は概ね計画通りであったものの、売上高が修正予想の前提条件を下回った事により、営業利益は修正予想に対し 27百万円減益の 2億67百万円となりました。また、営業外費用において、持分法投資損失を85百万円計上したこと等により、経常利益は修正予想に対し 77百万円減益の 2億27百万円となりました。
なお、前年同期比では営業利益 1億28百万円、経常利益 2億41百万円の減益となりました。
- (8) 特別利益につきましては修正予想 27百万円に対し 77百万円を計上。特別損失は修正予想 2億31百万円に対し、「減損損失」「投資有価証券評価損」等が増加し、6億50百万円計上いたしました。これにより当期純利益は修正予想に対し 4億49百万円減益の 5億49百万円の損失となりました。
なお、前年同期比では 3億92百万円の減益となりました。
- (9) サガミの既存店の状況につきましては、客数が前年比 5.4%減、客単価が 2.7%増となりました。これにより現金売上高は 3.1%減となりました。

6. 平成22年1月期の業績予想

○連結ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	11,630	24,000	△6.2
営業利益	△90	310	16.0
経常利益	△75	330	45.0
当期純利益	△200	△25	—
一株あたり 当期純利益	△8.1	△1.0	—

○単独ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	第二四半 期累計	通期	前年比 (%)
売上高	10,205	21,200	△7.1
営業利益	△150	285	73.2
経常利益	△138	300	42.8
当期純利益	△240	△50	—
一株あたり 当期純利益	△9.8	△2.0	—

○連結ベースの業績予想について

- (1) 平成22年1月期より売上高・広告宣伝費の計上方法を一部変更いたします。
 - ① 前期までは、受取家賃を営業外収益、これにかかる支払家賃等を営業外費用に計上してまいりました。今期より、転貸物件が増加していることを理由に受取家賃を売上高、これにかかる支払家賃等を売上原価に計上することといたしました。
 - ② 前期までは、値引券回収に伴う回収額を売上高、同額を広告宣伝費にて計上してまいりました。今期より値引券の配布内容が変更となるため、売上高・広告宣伝費共に計上しないことといたしました。
 - ③ これによる平成22年1月期業績予想へ及ぼす影響額は、売上高 4億48百万円減額、売上原価率 0.8%ポイント増加、販管費 5億26百万円減額となります。
- (2) 通期の既存店売上高前年比は「サガミ 2.8%減」「どんどん庵 ±0%」をそれぞれ見込んでおります。売上原価率は前年同期比 0.8%ポイント増加の 30.6%を計画しております。
- (3) 販管費につきましては、経費削減計画を継続し前年同期比 13億53百万円（実質 8億27百万円）削減する計画です。これにより販管費は 163億50百万円を計画しております。
- (4) 特別利益につきましては、今期の計上予定はありません。特別損失につきましては、固定資産除却損 73百万円、減損損失 1億77百万円を含む 2億55百万円を計画しております。
- (5) 配当につきましては見送る方針です。

7. 追補

○その他開示書類について

本日付で「投資単位の引下げに関する考え方及び方針等について」「有価証券報告書及び半期報告書の訂正報告書の提出について」「内部統制システム構築の基本方針の一部改定に関するお知らせ」を開示いたしました。

○中期計画とその進捗状況について

当社は平成19年8月に平成23年1月期を最終年度とする中期計画を発表いたしました。しかしながら、ガソリン価格の高騰による車離れや、生活必需品の相次ぐ値上げにより個人消費は低迷。さらに、日本経済は内需・外需の落ち込みにより、景気後退局面を迎えており、かつ雇用不安も相まって長期化する様相を呈しております。

このように、中期計画策定時に想定した以上の環境変化が起きており、この変化に即した対策・戦略を立てる必要があると判断いたしました。従って、中期計画を見直すこととし、修正計画につきましては、環境の変化、直近の業績推移等を精査したうえで策定・発表する予定であります。

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1) 基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」「企業を通じてお客様に奉仕する」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2) 情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet: Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3) 業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4) 沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5) ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。